

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

鳥取県智頭町

2022年9月

**SDGs未来都市計画名**

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

鳥取県智頭町 SDGs 未来都市計画

－中山間地域における住民主体のSDGsまちづくり事業－

—

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

鳥取県智頭町 SDGs 未来都市計画－中山間地域における住民主体のSDGs まちづくり事業－

## (2) 2030年のあるべき姿

今ある文化・伝統・風習を守り、一人ひとりに寄り添い、想いがカタチになる可能性がたくさんある場所のあるべき姿とする。

## (3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



## (4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	自伐林業家及び自伐型林業家（経営体）【8.3,9.2】	2019年 15 経営体	2021年 11 経営体	2030年 20 経営体			-80%
2	コミュニティビジネスの種類【8.3,9.2】	2019年 4 種類	2021年 7 種類	2030年 6 種類			150%
3	行政へ参加する人数（地区1/0）【11.3, 11.7】	2019年 5 地区	2021年 5 地区	2030年 6 地区			0%
3	行政へ参加する人数（百人委員会委員）【11.3, 11.7】	2019年 96 人	2021年 95 人	2030年 180 人			-1%
4	行政へ参加するアクターの種類（女性団体）【16.7】	2019年 3 団体	2021年 4 団体	2030年 5 団体			50%
4	行政へ参加するアクターの種類（町長・町議会選挙投票率）【16.7】	2019年 80 %	2021年 74.54 %	2030年 90 %			-55%
5	森林資源を活用した新規事業の数【4.2, 11.4, 15.4】	2019年 3 事業	2021年 6 事業	2030年 6 事業			100%

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

自伐林業家及び自伐型林業課（経営体）については、経営体の数は減少しているものの、人数は増加している。研修受講希望者も増えており、引き続き町内外への発信を継続していく。

行政への参加（百人委員会）については、人数の変動はほぼ無いが、部会の一部会新設された。参加者の固定化はあるものの、新たなチャレンジの創出の場となっている。

選挙投票率については、徐々に減少している。期日前投票所の箇所を増やすなどの取り組みをしているが、今後コネクテッドカーを活用した移動型投票所を検討していきたい。

本町が将来像として掲げる「一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ」を実現するため、最も重要視している事業は「1/0村おこし運動」や「百人委員会」など、住民自治力向上や行政への参画意識を向上させる取り組みである。

住民団体や若手林業家達の自発的な活動が積極的に展開され、コミュニティビジネスの増や自伐型林業経営体の維持が図られている。

地区1/0活動や百人委員会の参加人数については昨年度と同規模で推移しているが、地区における地域経営や福祉、防災意識の向上や、百人委員会での新たな提案の発信など、確かな前進が見られる一方で、参画アクターとして新たな女性団体の形成や、投票率増には至っていない状況となっている。

都市部企業とのつながりと、智頭町の豊かな森林資源を活かした新規事業については、グランピングや木のワークショップ、林業体験など順調に数を増やしている。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2019年実績	2020年実績	2021年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	森林関連事業（森のようちえんと森林セラピー）の拡大	森のようちえん入園数	2019年 30人	2019年 30人	2020年 28人	2021年 30人	2021年 30人	100%
2	森林関連事業（森のようちえんと森林セラピー）の拡大	森林セラピー参加者	2019年 500人	2019年 500人	2020年 410人	2021年 213人	2021年 1,000人	-57%
3	自伐林家及び自伐型林家の育成等による林業再生	自伐林家、自伐型林業家	2019年 15人	2019年 15人	2020年 16人	2021年 18人	2021年 17人	150%
4	セラピーロードの整備	整備されたセラピーロード数	2019年 3箇所	2019年 3箇所	2020年 4箇所	2021年 4箇所	2021年 4箇所	100%
5	食育と健康体操の普及促進	介護保険認定率	2019年 17.2%	2019年 17.2%	2020年 17.5%	2021年 16.9%	2021年 17.2%	100%
6	高齢者や一人暮らし家庭などの見守り事業	見守り安心ネット（お元気ですかメール）の利用者	2019年 87人	2019年 87人	2020年 82人	2021年 77人	2021年 100人	-77%
7	ちづNEXTと百人委員会学生版によるふるさと意識の醸成	愛着・関心度の育みアンケート	2019年 -	2019年 -	2020年 -	2021年 -	まちづくりワーク1回 ショップ	-
8	起業支援	起業数	2019年 9社	2019年 9社	2020年 12社	2021年 15社	2021年 11社	300%
9	育みの郷	豊かな自然環境で出産の喜びや子育ての感動（出生者数）	2019年 37人	2019年 37人	2020年 30人	2021年 27人	2021年 45人	-125%

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

「森のようちえん」など子育て世代への協力的な発信力を持つ取り組みによって、町外からの移住希望者が増え、町内で起業するという好循環が顕著になっている。移住者の雇用の受け皿として、自伐型林業や複業協同組合などが高いポテンシャルを持ち、「ちづNEXT」においてそうした実践者の特別授業を中学校で展開、百人委員会へ参画し、新たな提案に繋がるなど、地域と移住者が深く繋がる仕組みとなっている。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

役場若手職員で構成される「SDGs推進チーム」を組織しており、町民ワークショップ、中学生へのちづNEXT授業、DXアイデアソンなど横断的な活動を行っている。また、有識者、地元金融機関、商工関係者から組織される「SDGsアドバイザーボード」を設置、中学生ワークショップへの学生派遣などの協力や、未来都市計画次期計画へのアドバイスをいただいている。

地域経営の観点からは、旧小学校やコミュニティセンターなどの各地区拠点を活用した取り組みが地域住民中心に展開されており、キクラゲ栽培、グランピング、コールセンター誘致、温浴施設経営など、それぞれの地域が工夫を凝らした活動を行っている。

育みの観点では、助産院いのちねによる産前産後サポートと、森のようちえんなど子育ての選択肢、ちづ図書館による学び、さらに今後介護から看取りまでの設備整備が予定されており、育みの地域内循環の形成が期待される。

健康、福祉の観点では、高齢者見守り事業や介護予防事業として「森のミニデイ」「百歳体操」などを積極的に展開しており、介護保険認定率の微減に繋がっている。

課題としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、森林セラピーをはじめとした各種アクティビティ、体験事業参加者、観光入込客数の激減が町内商工業等の経済循環へ直撃しており、イベント中止などによる活性化気運の低下が懸念されている。しかしながら、生活様式や価値観の転換をチャンスと捉え、中山間地域の魅力を都市部へ発信し、新たな関係人口を創出する仕掛けづくりを今後実践していく必要がある。

・高齢者対策事業としてのお元気ですかメールについては対象者が死亡、入所、入院等により減少しているが、継続して行っている。認知症予防アプリや、共助交通アプリなど、IP告知端末を活用した高齢者向けコンテンツを活用した安否確認や健康意識の醸成を図っていく予定。

## (4) 有識者からの取組に対する評価

- ・町が目指す、町民の自主自立型の活動への様々な仕組みが整いつつあると評価できる。小さな事業の積み重ねが必要であり、継続的に取り組むことが、意識改革へ、ひいては行動改革へ繋がることを意識して引き続き対応することを期待する。
- ・移住希望者の増加を踏まえ、雇用の受け皿となるべくどのような取組を中長期的に発展させるのか検討する必要があると料する。
- ・キクラゲの事業を含め、雇用を確保をどのようにするのか検討されることを期待する。